

TIA-nano 中核4機関長と議長によるパネルディスカッション 「つくばから未来の産業を起すために」

各機関の活動状況の紹介の後、表題「つくばから未来の産業を起すために」について活発な討議がなされた。議論は多岐にわたったが、下図のように、TIA-nano の研究開発機能の強化、成果の産業化促進、そして支える人材育成の3点に集約される。

1. 世界のナノテク研究開発拠点に発展

現状は将来への投資が少なくなっている。大型案件のテーマが少なくなっている。

- ⇒ 「アポロ計画」「エイズ撲滅」のような簡単な市民にも分かるキャッチフレーズ
大きなテーマを決めて、関連するものは何でもやる
- ⇒ 東京、関西、つくばと研究開発の3極の一つとなる

2. 研究開発成果の産業化

個人は論文発表でできればよいが、組織は成果が求められている。

- ⇒ コーディネート機能の確立と充実
- ⇒ 研究開発目的・研究の出口と研究開発計画の明確化
- ⇒ 有言実行、目標を定めて計画立案
- ⇒ ビジネスモデル化、マーケット戦略策定

3. ナノテク分野における人材の育成

日本は中小企業も含めて企業に余裕がない中、つくばの人材育成機能が重要である。

- ⇒ 研究環境の整備
目的に向かってまい進できる環境の整備
- ⇒ 研究支援者の育成が必要
- ⇒ 待遇改善も必要
- ⇒ 人材を集めるためにも「つくば」の知名度向上が必要

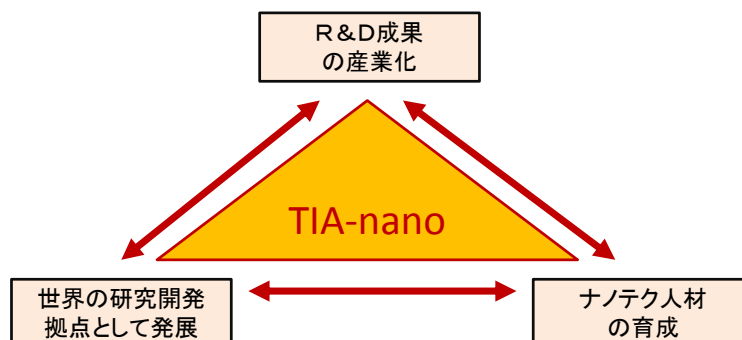


図 1. TIA-nano の発展の図式